

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 20 年 8 月 9 日 開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ちとせ _____ (広島県)
評価調査員の氏名	氏 名 <u>延平 和子</u> 氏 名 <u>羽原 高代</u>
事業所側対応者	職 名 <u>管理者</u> 氏 名 <u>小山 奈緒美</u> ヒアリングを行った職 2

項目番号について
外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3474300286
法人名	医療法人社団木下メディカルクリニック
事業所名	グループホームちとせ
所在地	福山市沼隈町大字草深2037-1 (電話) 087-987-2411
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 20 年 7 月 25 日

【情報提供票より】(20 年 7 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 1 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 2 人 非常勤 6 人 常勤換算 7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金)	有(50000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1000 円	

(4) 利用者の概要 (7 月 20 日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 84 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団健信会木下メディカルクリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年 8月30日

利便性がよくスーパーや道の駅や近くに社協もあり関係も密にできている。利用者の希望をかなえるよう日々努めていて、利用者や家族の満足度も高い。利用者が近隣の方が多く職員も近隣の方を採用されているため地域とのつながりがスムーズであり協力体制ができている。協力医療機関もすぐそばにあり、24時間体制ができているため利用者、家族も安心できる。職員も声掛けもやさしく常に気配りし、利用者の状態を察知し対応するよう取り組まれている。笑顔でやさしい心でつなごう千年とちとせの輪を目標に、管理者、職員が一丸となって頑張られ安心して暮らすことができる事業所である。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題については運営推進会議の開催もし、地域密着型サービスとしての理念も作成し改善に向けてすべて取り組まれていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、全職員の意見や気づきを取り入れ、管理者が作成された。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1回開催し、利用者、利用者家族、自治会長、民生委員、包括支援センター(2名)、行政担当者(2名)、社会福祉協議会、協力医療機関など15名の参加協力を得、状況報告、行事報告など今後の地域との関わり方について意見交換を行い、そこで出された意見要望について真摯に受け止めサービスの質の向上に向け取り組まれていた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用開始時に十分説明を行っている。計画作成時にも聞くように努めている。何かあれば口頭で言われる雰囲気作りができているので家族も意見が言いやすい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、とんど祭りや地域のいろんな行事に参加し、地元の方と交流している。福祉祭りに作品などを出展している。利用者も職員も地元の方が多いので、地域との連携が十分できている。地域に根付いたホームとなっている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と利用者と地域の方のつながりを重視し、今年新たに職員と共に作られた。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングで話し合いをし地域密着型としてのつながりを重視すると共に理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、とんど祭りや地域のいろんな行事に参加し、地元の方と交流している。福祉祭りに作品などを出展している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングの中で話し合い再確認しながら職員と共に取組まれ管理者が作成された。昨年の外部評価については改善に向けて出来るところから行っている。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回開催し、民生委員、包括支援センターより2名、介護保険課より2名、家族、自治会長、社会福祉協議会、運営者の参加のもとサービス等に関する報告や意見交換を行いサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とも気軽に何でも聞かれる関係づくりができている。また社会福祉協議会の担当者ともつながりが密にできている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書に通信欄を作り担当者が日ごろの様子を記入している。家族もよく訪問されるためその都度報告もしている。健康状態に変化があれば電話で連絡されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画作成時に聞くように努めている。何かあれば口頭で言われる雰囲気作りができているので家族も意見が言いやすい。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどない。新職員が入られたときには家族にも紹介している。やむを得ず離職した場合には十分説明をしているのでダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員が外部研修に出むき、資料を基に周知している。グループホーム協会の研修やその他の研修にも積極的に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議に出向き、話し合いの場には参加しているが、交流までには至っていない。		地域の同業者との交流を持ち、勉強会や相互訪問を通じて質の向上に取り組まれることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>協力病院からの利用者が多いため、ほとんど顔見知りの関係ができています。管理者が病院に出向き話し合いを行い納得の上で利用してもらっている。その他の方は家族と本人に見学してもらう場合もある。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>柏餅づくりやちまきづくりを教えてもらったり、料理なども教わったり利用者職員がお互いに支え合っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>プランを立てるとき本人や家族に希望や要望など聞いている。本人が聞くたびに違うことをいわれることもあるので根気強く聞くよう努めている。また日々の生活の中で声掛けをし、希望の把握をし、食べたいものや外出等要望に沿うようしている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の希望は日々のケアの中で汲み取り、家族から出された意見などを基に、職員とも話し合い、管理者、計画担当者で作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回モニタリングをし、それを基に半年に1回見直しをしている。状態に変化があればその都度見直しを行い、家族にも意見を聞きながら作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況や要望により、随時必要なサービスを行っている。かかりつけ医への受診の支援や自宅への帰省支援など柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より、2週間に1回の往診があり、緊急の場合も適切な医療が受けられるよう支援されている。歯科は利用者のかかりつけ医の受診で対応されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営者が協力医療機関のため、安心感があり利用者、家族、職員共に方針の共有が図られている。終末期はご家族の希望でかかりつけ医に入院される場合もある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねないような言葉かけに心がけている。個人情報の取り扱いも配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康状態に配慮しながら、本人の希望に添うよう支援している。食事の開始時間など自由にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に会話を楽しみながら、ゆったりとされている。できる方には後かたづけなど職員と共にされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴方法等希望に沿ってシャワー浴や清拭の対応をしている。清潔を心がけ拒否の方にも工夫をし、入浴をしてもらうよう促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お経を読まれたり、自分の小遣いで買い物をしたり、また力量に応じた食事の後片付けなど個々の生活歴を活かした支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月曜日や木曜日は買い物、ドライブなど利用者の懐かしいところに行くよう支援している。近所や自宅近辺の散歩など日々出かけられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普段は施錠はしていない。徘徊傾向の方は把握され、センサーと見守りで対応している。事業所内は死角がなく目が行き届く状況である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練は協力医療機関と合同で定期的に行っている。運営推進会議やホームだよりで地域の協力を得るよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量をチェックし、1300CCから1500CCを目安に不足しないよう心がけている。栄養バランスについては管理栄養士と相談しながら利用者一人ひとりの健康状態に配慮しながら対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花も生けられ、家族作品も共有空間に飾られていて、落ち着いて過ごせる雰囲気となっている。浴室やトイレなど不快な匂いもなく清潔に保たれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒の持ち込みも多くなじみの物品もあり、落ち着いて生活されている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ちとせ

評価年月日 2008年 8月 9日

記入年月日 2008年 7月 25日

記入者 管理者 氏名 小山 奈緒美

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	利用者さんとスタッフが、共に地域で一緒に暮らすことを目標とし、「笑顔と、やさしい心でつなごう千年とちとせの輪」としている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	職員全体で、理念を共有し、取り組みについて話し合い実践している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	運営推進会議・ホームの「ちとせだより」の配布により地域の方にも働きかけている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	近隣に、ホームの便りを配布し情報提供に努めている。買い物に行ったり散歩で顔見知りになり、日常的に付き合いに努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	老人会行事、地域の行事に参加させていただき、地域との積極的交流に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症予防教室など依頼があれば出向き、地域の方との交流に努めている。		キャラバンメイト研修を修了したので、今後は地域の暮らしに貢献できるよう取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価により、気づきや反省がありスタッフ全員で話し合い、具体的に改善に取り組むようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催することにより、サービス等に関する報告や意見交換を行っている。		次回は評価報告を中心に話し合いを持ちたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町のスタッフを交え運営推進会議を行い、意見をいただいたり、普段から気軽に問い合わせにも応じていただき、サービスに質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度・地域福祉権利擁護事業について、おおむね理解している。 必要性のある方については、地域包括支援センターの支援をいただき話し合いを進めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待・身体拘束については、勉強会等で理解を深め、日常の介護場面でもスタッフ同士声をかけ合い防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項説明書をもとに、ていねいに説明話し合いで理解いただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で、利用者様の、不安・苦情に耳を傾け気を配り、常に話し合い、その都度の対応を心がけている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状況については、状態により電話連絡したり、暮らしぶりや普段の健康状態については、毎月の通信として写真と合わせ報告している。金銭管理の報告は随時来訪時に個々に報告し、承諾のサインをいただいている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付についての説明は入居時に行い、意見箱を設けたり、来訪時には、意見や要望をこちらからも声をかけ聞くようにしている。要望等には、スタッフでも検討しできる限り対応に努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフミーティングで意見交換し、運営者にも報告対処している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な時間帯に職員を確保するため、勤務調整し、夜勤者の不安解消のため、夜間緊急時の対应当番を決めるなどの工夫をしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はほとんどなく、地元の方の雇用を心がけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護・グループホームに関する研修に参加できる機会にできるだけ参加し、グループホーム内の勉強会に生かしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の高齢者ケア会議に参加し、勉強会や事例検討などで他の事業所と交流を図り、質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内の年数回の懇親会に参加。		スタッフが利用者と離れ、休憩できる場所の確保が必要と考えている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人員など、向上心を持って働く環境に協力的。認知症介護にかかわる研修に、積極的に参加できる環境にある。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から、本人・家族から話をよく聞き情報収集に努め、本人が安心して暮らせるよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との面談には時間をかけて、今までの経過や苦労話や今までの思い、入居に関する不安などを時間をかけて聞かせていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族がどのような支援を必要としているか見極め、できる限り柔軟な対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できる限り、入居前に来訪していただき、面談したり御家族とも相談しながら本人が徐々に馴染めるよう努めている。		希望があれば、お試しの利用も考慮してみたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方から学ぶ場面作り、家事・行事など助け合い、共に過ごす時間をなるべく持ち相談しながら生活している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族とのコミュニケーションを大切に、情報交換を密にし本人と一緒に支える姿勢に努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の普段の様子をこまめに報告したり、外出や外泊・一時帰宅の相談やお願いをしたりの支援をしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす、友人や知人に声をかけ訪問のお誘いをしたり、親戚や友人宅へ出向いたりの支援をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん同士の関係、トラブルや孤立には特に気を配り、日々のかかわりを持つように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後入院される方が多いので、面会に行ったり、開設当時に入居されていた家族の方が雑巾用のタオル持ってきてくださったりの付き合いがあり、ありがたく感謝しています。 時には、入居希望の紹介をしてくださる方もあります。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族の意向と日々のかかわりの中で、どのように暮らしたいか把握に努め、本人本位のプランを立てるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から入居時に、出来るだけ多くの情報を頂き、知人の面会時にも本人を交え談話することにより、馴染みの暮らしなどの把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの身体状況・生活パターンを把握し、出来ることに注目するようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族の意向をもとに、出来ること、できそうなことを話し合いプランの作成をしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一回のケアカンファレンスでモニタリング・見直し・プラン修正を随時行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や普段の様子を個別に記録している。もう少し介護計画の見直しに生かせるような記録をめざしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の支援、ホームで出来る医療処置など、出来ることは柔軟に対応している。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員さんに運営推進会議で地域とのかかわりについて相談したり、交番に行方不明時の捜索協力、社会福祉協会の行事に参加させていただいたりしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、自宅への退去時や他の事業所からの入居時には、情報交換している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度の相談や運営推進会議の参加をお願いしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態により、受診・訪問診療他科受診など適宜適切な対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診支援をしている。かかりつけ医を通して専門医の助言などで対処している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的に支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関に情報提供し、家族や主治医と話し合いながら早期退院に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に おおよそその方針を話し合い、その後は、状態に変化があるごとに家族・主治医・看護師・スタッフと話し合いを重ね、その都度対応している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族・医師・看護師・スタッフが普段から話し合い、状況がかわる毎に今後の対応について繰り返し話し合っている。現状で出来ること、出来ないことも随時家族の方に伝えている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族・看護師・担当ケアマネ・担当ケア関係者に環境や、今までのケアの工夫やこだわりなどの情報をいただき支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについて配慮し、プライバシーを損ねないような言葉かけ、接し方を常に心がけている。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの力に合わせ、かかわりを持ち画一的にならないよう自分で選んだり決定する場面作りをこころがけている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを大切にし、健康状態にも配慮しながら本人の望みを尊重し、日々過ごせるよう心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	買い物に行き、自分で服を選んだり、外出時は服を着替えたりと、自己決定を促す支援をしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は病院食を利用しているが、毎食の汁物はホームで入居者の方と作り、他にも旬の野菜やくだものを付け合わせたり工夫をしている。かたづけや準備もできる能力や、その日の体調によりできるだけ一緒にしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品・おやつなど、日常的に柔軟に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。昼間のおむつの使用はしていない。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>午後入浴となっているが、一人ひとり本人の希望に沿うよう支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活パターンに合わせて対応している。昼寝や休息も状況に合わせて支援することにより、夜間の安眠を促すよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>朝の洗濯から食事の準備などスタッフとともに、何にでもかかわっていただき、役割や楽しみを持ち過ごせるよう支援している。 希望により先日は、みんなで柏餅とちまきを作りおいしく頂きました。 今度は、おはぎを作るそうです。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望や力に応じて自分でお金を管理されたり、少額でも自分で所持されたりして楽しみをもって生活されています。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>スーパーや道の駅に買い物に出かけたり、近所を散歩やドライブと楽しみをもっていたりできるよう支援している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>墓参り・自宅への帰省・親戚や知人宅の訪問・ドライブなど希望に応じて支援している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日常的に気軽に訪問いただき、歓迎し感謝の気持ちを伝える。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的にしないケアが出来ていると認識しているが、言葉による拘束についての再認識と今後の取り組みの必要がある。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・居室とも鍵をかけないケアで自由な暮らしの支援をしている。		鍵をかけないことにより、行方不明・危険防止のため家族の承諾を得て、危険の予測される方へのみアクセスコールの利用を開始した。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りやすい環境にあるので、常に様子を察知し安全の配慮につとめている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状況に応じて対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハット報告を、個人別にまとめ一人ひとりの事故防止策の参考にしている。		今後の 事故防止策を具体的に検討し続ける必要あり。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習をうけ職員で勉強会をしたり「、緊急時の介護」ビデオで初期対応の学習を行い備えている。		定期的訓練の必要あり。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に沿い避難訓練・消防訓練を行っている。運営推進会議やホームの便りで地域の方にも協力を働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態が変わるごとに、起こり得るリスクについてその都度説明話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックと異変の早期発見・早期の報告で速やかな対応を心がけている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は職員がいつでも確認できるようにファイルし、処方の変更は職員全員が把握できるように業務日誌で伝えるようにしている。処方の変更により起こりうる作用・副作用についても把握し記録、報告をするようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の認知症の方に及ぼす影響を理解し、個々の排便のリズムを把握し、飲食・飲水・運動やトイレに座る習慣づけなどに取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の状態に応じ、毎食後の口腔ケアの支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェック・記録し、適切な支援に努めている。栄養バランスに不安のある場合は、おやつで補給したり、食事制限のある方には、管理栄養士と相談しながら対処している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルがあり、普段から手洗い・消毒など感染予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内の清掃を1/w、特に冷蔵庫のドアの取っ手は毎日ピューラックスで清掃消毒。調理器具の消毒にも気をつけている。その他作り置きをしないなど、管理栄養士の指導のもとホームで作ったものについては保存食として2週間保存している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 士 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の花壇の整備中。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり落ち着いてついて過ごせるよう心がけ、テレビのつけっぱなしなどないよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所 づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や外のベンチで過ごしたり、気の合った方同士で居室で過ごしたり、ホールの畳で横になり休んだり、自由に過ごされています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものや馴染みのものを取り入れ、本人・家族と相談しながら 混乱などのないよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室ごとの温度調節や換気・加湿など個々の状況に合わせて配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	ホールの手すり・トイレ・浴室・ベットサイドの起き上がりバー・歩行器利用など、出来るだけ安全で自立した生活を送れるような支援を心がけている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの力に合わせ、それぞれ環境を整える等の工夫を試みている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の花壇で、季節の花を楽しんでいる。ベンチに座りのんびり過ごしたりしている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない 19

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族的で、スタッフがみんなやさしい。
 利用者の食べたい物を一緒に作り楽しんでいる。
 ゆっくりのんびり利用者さんと過ごす時間がとれるので、色々として差し上げたいことが出来る。
 自然にめぐまれ、のんびり暮らせる環境にある上に、スーパーや道の駅が近く便利で楽しめる。